



年頭挨拶

北海道開発局長 鈴木 英一

明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、北海道経済は景気の回復が遅れ、依然として厳しい状況が続いていますし、道内企業による食品の賞味期限改ざんなど、北海道の「食の安全・安心」を揺るがす残念な出来事もありました。

また、夕張市が昨年3月に財政再建団体となりましたが、夕張市のみならず道内自治体の厳しい財政状況も続いています。

こうした中、北海道日本ハムファイターズのリーグ連覇やコンサドーレ札幌のJ1昇格は道民に希望を与える明るい話題でした。

また、道央圏において自動車産業・リサイクル産業を中心とした企業立地が進んでいることや、食味が良く、クリーンな道産米が道内・外から高い評価を受けていることなど、北海道の新たな成長の芽とも呼べる動きも出てきています。

これらは、関係者の皆様の努力はもちろんです。が、長年にわたり推進してきた高規格幹線道路、国際港湾、国際空港、農業生産基盤などの開発事業が効果を発現し、地域の競争力の強化に寄与している面が大きいと考えています。

北海道の開発は、北海道開発法の下、これまで6期にわたる北海道総合開発計画を策定し、我が国経済の復興や食料の増産、人口や産業の適性配置、多極分散型国土の形成など、その時々々の国の課題解決に寄与することを目的に、北海道の持つ広大な国土空間・豊富な資源などを活用して進められてきました。

現行の第6期北海道総合開発計画が平成19年度末に終了することから、現在、これに代わる新たな北海道総合開発計画の策定に向け、国土審議会北海道開発分科会を中心に検討が行われているところです。

新たな北海道総合開発計画につきましては、昨

年12月に開かれた北海道開発分科会で議論された素案に関して、皆様からのパブリックコメントを募集しているところであり、今後、さらに検討を重ね本年3月の閣議決定を目指しています。

本年は、新たな北海道総合開発計画の初年度であり、今後10年の北海道開発行政をスタートさせる大変重要な年です。

また、7月には、北海道の魅力を世界にアピールする絶好の機会となる北海道洞爺湖サミットが開催されます。サミットを契機として、環境や観光など北海道の優れた特性を活かした取組の一層の推進が期待されるところです。

北海道開発局としましては、新たな北海道総合開発計画に基づき、北海道がその優れた資源・特性を活かして、新たな時代を切り開く先駆者として我が国の課題解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を実現するため、食料、観光等の分野を中心とした成長力・競争力の強化、そして、近年頻発する自然災害を踏まえ、防災・減災といった道民の皆様が安全・安心に暮らせる地域社会の実現を図る施策を推進して参ります。

また、国、地方とも財政事情が厳しい中、事業の実施に当たっては投資効果を高めるため、コスト縮減等に努めつつ「選択と集中」の考え方に基づき重点化・効率化を図って参ります。

さらに、総人件費改革に伴う純減方策の実施、道州制特区推進法に基づく事業の北海道への円滑な移譲に向けた準備などにも着実に取り組んで参ります。

私たちは、より厳しさを増す社会情勢の下、道民・国民の要請に応える開発行政を推進するため、一丸となって開発局の役割、使命を果たしていきたいと考えておりますので、本年もご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

最後に、皆様のご健康と益々のご活躍をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。